

令和3年度 栃木県立宇都宮清陵高等学校 学校自己評価

教育目標 ○豊かな思考力に支えられる創造的な知性を持つ生徒の育成 ○強い意志力から生まれる自立的な精神を持つ生徒の育成 ○知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性を持つ生徒の育成

目指す学校像 ○一人一人の進路実現に向けた、きめ細やかな進路指導と充実した学習指導に取り組む学校 ○規範意識を高め、社会性と自ら進んで行動する力を伸長させることに努める学校 ○特別活動の充実を図り、心身の健康を養い思いやりや協調性をもつ生徒を育成する学校 ○現代社会の変化に対応できる教養を高めるために、科学技術リテラシー教育を推進する学校

今年度の重点目標 1. 自主自律の態度を育てる活動を充実させ、学力の向上及び個性の伸長を図る 2. 他者と協働しながら目標に向かって挑戦させる活動を通し、愛校心を育てる

達成度 A:十分満足できる B:概ね満足できる C:満足できない D:努力を要する

※上記の4段階を基に、各領域において達成基準を作成

◇重点目標 1. 自主自律の態度を育てる活動を充実させ、学力の向上及び個性の伸長を図る

領域	具体的な教育活動	達成状況	達成度	次年度への課題
部	教務 (1)新教育課程実施に向け、クラス編成・類型選択・評価が適正に行われるよう組織マネジメントする。 (2)ICT機器を含めた教室内外の学習環境整備を推進する。	・新教育課程実施に向けた準備は進んでいるが、評価についての検討を深める必要がある。 ・GIGA端末・校務支援システムは一部試行的に活用している。	B	・GIGA端末・校務支援システムの本格運用に向け、積極的活用のための管理の在り方を検討しマニュアルを作る。
	学習 (1)情報を活用した学習及び他者と協働した学習の機会の創出と実践支援。 (2)日々の学習サイクルの定着及び自主学習の実践指導。	・進路指導部・教務部と協力し、自習室を整備して、自習スペースを提供できた。利用しやすい環境にすべく、検討を継続し、積極的な利用を促したい。	B	・「清陵生学力アッププログラム」を見直し、学力向上の支援に努めたい。
	図書 (1)図書館を活用した行事の充実に努めるとともに、購入希望図書や進路研究、時期に応じた図書を充実させて、読書の場・学びの場として適した環境整備に努める。	・来館者が増加し昼休みを中心に活気が出て、貸出数も増加した。読書コンシェルジュやビブリオバトルなど意欲的に活動できた。	A	・来館したことのない生徒への働きかけと、次の来館につなげる取り組みを検討する。 ・図書館利用のマナー遵守の徹底。
	進路 (1)進路行事で意識を高め、希望進路に向けて生徒が意欲的に学力を向上させることができるよう環境を整える。	・コロナ禍であったが、柔軟に対応し進路行事をほぼ実施できた。 ・3年生の進路実現に向け面接指導を綿密に実施した。 ・1年生の行事の振り返りなどをClassiとキャリアサポートで連携させた。 ・自主的に学習に向かう姿勢が生徒によって異なった。	B	・各部・各教科と連携し、授業第一の姿勢を育成する。 ・新しい入試制度、新教育課程などに応じた、進路行事の見直しを行う。 ・生徒に応じた模試の目標制定・振り返り等の機会を設定する。
学年	1学年 (1)自学自習の習慣の確立。 (2)基礎学力の定着と思考力の育成を図る。 (3)生徒の現状を把握するため、面談等を充実させる。	・朝学への参加、授業態度は概ね良好だった。多くの生徒は授業内容が定着していると言えない状況で、学習意欲は生徒によって大きな差がある。 ・進路意識は徐々に高まっている。	B	・具体的な進路目標を掲げ、学習意欲に結び付けられるような具体策を考え、家庭学習を習慣化させるための策を講じる。
	2学年 (1)進路学習の充実を図るとともに、放課後や土曜の学校開放日における教室、学習室等の利用を促し学習時間を確保させる。	・小テストへの取り組みは良くなっている。 ・チャレンジボックスも特定の生徒であるが活用している。 ・タブレットは通信環境に問題あり。	B	・生徒の進路実現に向け、学年全体で取り組むべき学習と個に応じた指導の両面から対策できるよう、早期に進路の方向性を明確化させる。
	3学年 (1)各自に目標を設定させ、達成するために計画的に努力するように必要な援助をする。	・授業態度は概ね良好で、進路実現の為に自主的に努力を重ねていた。教室や図書室を利用して居残り学習をしたり、教科担任に放課後指導を受けるなど、意欲的に学習に取り組む姿が数多く見られた。	B	・各自が自分の目標に向かって努力をするための環境整備の一つとして、自習室の利用がしやすくなるとさらに良いだろう。
教科	国語 (1)「漢字コンクール」を軸として、国語力の基礎となる漢字能力の育成を図る。	・予定通り8回実施。実施回数・受験人数による違いはあるが、3年間継続の成果はある。2年生13.63→15.39、3年生は15.08→16.98とアップしている。発表された結果を見て、意欲は喚起されていたようだ。	B	・追指導のあり方(再試験の合格率が低い)。 ・漢字コンクールへの取り組み意欲向上。
	地歴公民 (1)四大受験までを見据え、授業に入試問題等を取り入れる (2)主体的に問題を解き、進路意識を高め、深い学習に結びつけさせる。	・定期テストや校内模試において大学入試問題を活用することが出来たが、主体的に取り組む生徒をもっと増やす必要がある。	B	・生徒の意欲向上につながるような大学入試問題の活用法を研究する必要がある。これだったらやれば出来ると思ってもらいたい。
	数学 (1)主体的に考えたり、自分の考えを表現したりする活動を充実させる。 (2)思考力を問う問題を取り入れる。	・コロナ禍で学び合いの場が制限されたが、授業展開を工夫し生徒に主体的に考えさせたり、自分の考えを表現させたりすることができた。 ・次年度を見据えて、知識・技能、思考力・判断力を問う問題を出題することができた。	B	・学習指導要領の改訂に向けて、次の5点に重点的に取り組む。 ①単元目標と評価規準の作成、②記録に残す評価場面と方法を計画、③生徒への説明準備とシラバス形式の検討、④指導と評価の一体化と実施
	理科 (1)生徒が主体的・対話的な学びを通して論理的思考力の育成を図る。	・実験・観察を、実験レポート提出を通して調べ学習を行った。 ・定期試験や課題テストを通して実験・観察や図表・グラフを読み解く問題を出題することで科学的思考力の向上が図れた。	B	・さらなる理科への興味関心や科学的思考力向上のために今年度の留意点の継続と知識・技能の定着をより図りたい。
	保健体育 (1)グループ分け、チーム編成、独自ルールの設定などを行う。	・各種目で基本動作を継続的に練習したことやグループ分けなどを工夫したことで、ラリーが続きゲームを楽しむことができるようになった。	B	・試合の進行やリーグ戦などを自主的に運営していけるように、ルールの把握を徹底させるとともに運営方法を習得させていきたい。
	芸術 (1)生徒自身の思いや考えを積極的に自己表現し、達成感を味わえるような授業を展開する。	・各授業の目標を明確にし、身につけてほしい力を示すことで、生徒が目標に向かい主体的に取り組める環境づくりを意識した。また、互いの作品への批評や感想を述べることで、対話的な授業を心がけられた。	B	・今年度以上に生徒が主体的に取り組む、芸術を自己表現の一つの方法になるような授業を心がける。

教科	英語	(1)「英単・構文コンクール」と「Weekly Test」により、語彙力の強化と文法知識の習得を図る。	・範囲を狭くしテスト回数を増やしたり、テスト前に居残り学習させることで、不合格者は若干減少した。	B	・語彙学習の進捗を週2回のWeekly Test で確認するだけでは、学習習慣を身に付けさせるのは難しい。達成感を得られる工夫が必要。
	家庭	(1)家庭生活、社会生活に関する問題を提起し、自ら考える力を身につけさせる。 (2)体験活動を取り入れ、実生活に応用できる力を身につけさせる。	・SDGsの観点から各分野を体験的に捉えた授業の構成を意識した。 ・ホームプロジェクトを実施させることにより生活の中でPDCA 活動をさせた。	B	・引き続きホームプロジェクトを実施させる。 ・ICTを使用した授業展開を考える。 ・生徒の考えを書かせる機会を増やす。
	科学技術	(1)科学技術の発展と利便性を学びながら、科学技術の基本となる知識や理論を、ものづくりを通じて理解させる。	・SDGsを題材にあげたSLTの号外を出すなど、委員会との連携を図り、生徒の興味関心を持たせる工夫ができた。	B	・情報が2年次に降りてくることが決まっているので、そちらとの関連性を考えた授業も展開していかなければならないと考える。
	情報	(1)情報モラルやネットマナーについて主体的に学ぶとともに、ICTリテラシーの向上により学びを深める力を養う。	・実習を中心にPCの情報処理・表現技術を磨いた。 ・情報モラルについては、教科書の内容を中心に学んだ。今後、DVDを活用するなど工夫したい。	B	・次年度から2年間、1年で新教育課程、4年で旧教育課程の科目があるので、目標を明確にしてそれぞれの学年の教科内容を実施していきたい。

◇重点目標 2. 他者と協働しながら目標に向かって挑戦させる活動を通し、愛校心を育てる

領域	具体的な教育活動	達成状況	達成度	次年度への課題	
部	生徒	(1)交通ルールの遵守・交通マナーの向上と交通事故の防止。 (2)ネットトラブルの防止に対する意識の向上。	・(1)について、交通事故の件数は昨年とほぼ同数なので、今後とも注意喚起していきたい。 ・(2)については、概ね良好であった。	B	・本校生にとって、重要課題であることは変わらないので、次年度以降も継続して指導していく。
	特活	(1)各行事へ生徒が仲間とともに自主的・積極的に参加し、活発な行事になるよう支援していく。	・コロナ禍での制限された状況の中では十分にできた。	A	・先生方や生徒から出された意見をもとに様々な状況に対応しながら、生徒の心情を大切にし行事の積極的な運営を心掛ける。
	健康	(1)ゴミの分別の徹底を図るとともに、清掃活動への意識の高揚をはかる。	・放送委員や事務部との連携により、清掃に対する意識の喚起、環境の整備充実は図られた。しかし、美化委員の活動を増やすことがあまりできなかった。	B	・生徒が自ら美化活動を行うためには、教職員の働きかけが重要である。生徒・教職員が一体感を持って取り組めるように努めていきたい。
	渉外	(1)学校と保護者との連携を通して本校の教育活動を支援、充実させる。	・総会の役員・運営委員新旧役員会、球技大会の会員限定写真公開、PTAスクールの会員視聴ができた。 ・コロナ禍で行事実施が困難だった。	B	・コロナ禍の中でも実施可能なPTA行事を検討していきたい。
学年	1学年	(1)こまめな指導を通して服装・頭髪の乱れ防止を図る。 (2)時間厳守を徹底する。 (3)クラスの連帯感を高める。	・教員間の協体制度ができていたおかげで、大きな乱れはなかった。 ・提出物の期限や時間を守ることは継続指導する必要がある。 ・中止となった行事もあるが、行事には積極的に参加できていた。	B	・規範意識を高め、自律した行動がとれる生徒の育成を目指す。 ・物事へ積極的に取り組み、リーダーシップを発揮できる生徒の育成を目指す。
	2学年	(1)TPOに応じた容儀や振る舞いのできる生徒を育てる。 (2)クラス、学年としての連帯感を高める。	・学年集会時の聞く姿勢は良好だった。2学期に挨拶が良くない時期があったが全体に注意したところ意識するようになった。 ・学年行事や学校行事への取り組みは積極的な姿勢が見られ、学年の連帯感が高まった。	B	・最上級生として、下級生の見本となるリーダー的資質を備えた生徒を伸ばしていくことによって、全体の資質向上を目指していきたい。 ・いろいろな意味で周りの影響を受けやすい生徒が多いため、良い方向に持っていけるように働きかけていく。
	3学年	(1)マナー(挨拶、言葉使い等)の向上を図る。 (2)学校生活のさまざまな場面で、仲間と協力しあい目的を達成する。	・挨拶の励行は全体的になされている。 ・遠足や清陵祭では、生徒が自ら楽しい雰囲気に参加する様子が見られた。	B	・全ての項目について、学校全体の模範となるのが望ましい。

◆保護者及び生徒アンケート

「重点目標1」に関しては、「自ら学ぶ態度の育成」の生徒の肯定的評価が上昇するなど本校の取組が定着している。しかし保護者及び教員の否定的評価(保護者は「わからない」を含む)が4分の1をしめるなど家庭学習時間は伸びていないと考えられる。また、保護者への情報発信などを行い連携を進め効果的な指導としていく必要があることを示している。

「重点目標2」に関しては、学校生活全体に積極的に取り組んでいる姿が伺える。一方で「自ら(クラス、部活動等)の問題として解決に取り組む姿」は生徒と教員間で評価が分かれる結果となっており、継続指導が必要であることを示している。また、「行事が充実していない」との回答が増加している。コロナ禍により行事の縮小が反映された結果であるが、魅力ある行事となるよう工夫が求められている。学校生活を有意義に送っている”入学してよかった”は3年連続評価が上昇している。

◆学校関係者評価

自習室の整備、各教科の指導は高く評価でき、放課後の自習などよい傾向がみられる。更に自発的に学習を行う意識の醸成をしてほしい。3年生になり校外模試の偏差値が下がる傾向がみられる。普通科高校である以上、進学を大きな目標として努力させることが肝要と考えられる。

また、「生徒の悩み相談」に関して教員と保護者で評価に大きな差がみられるため、改善を図る必要がある。コミュニケーション不足が問題行動へ繋がるケースもある。

運動部の活躍やボランティア活動など活発で学校の活性化に役立っている。コロナ禍で制限があると思うが地域活動、校外活動を取り入れてほしい。科学技術に限らずIT系の講座など取り入れる等特色を増やすのはどうか。ねぎらいの言葉とともに、以

◆重点目標における総合評価

評価基準	(1) 各達成度に対し、「A:7点」、「B:5点」、「C:3点」、「D:1点」を乗じて点数化する。										
	(2) 点数化した合計点を課題数で平均化(評価点)し下表に従い総合評価する。										
	<table border="1"> <tr> <th>総合評価</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <th>評価点</th> <td>6.0以上</td> <td>5.9~4.0</td> <td>3.9~2.0</td> <td>2.0未満</td> </tr> </table>	総合評価	A	B	C	D	評価点	6.0以上	5.9~4.0	3.9~2.0	2.0未満
総合評価	A	B	C	D							
評価点	6.0以上	5.9~4.0	3.9~2.0	2.0未満							

重点目標1	重点目標2
各教科による授業やテストの改善、各学年による手帳やClassiの活用による学習習慣の定着やチャレンジボックスの設置、各部による自習室の整備や放課後学習支援及び進路行事の実施。組織的に自主自律の態度を育てる方策をとり、学力向上に努めた。しかし、まだ外部模試の結果や進路実績としては表れていないのが現状である。学校内だけでなく保護者との連携が不可欠である。アンケートからも読み取れるように、情報の発信を積極的に行っていく必要がある。	他者と協働して活動していくために必要な集団としてのマナーは概ね身に付いている。次年度以降も継続して指導していく必要がある。清陵祭では文化部の発表・アンブレラスカイの試行、学年球技大会やLRT見学など生徒が他者と活動できるような行事を新たに実施した。行事の工夫に加え、より多く情報を発信し本校の魅力をアピールしていき、保護者や地域の方の外部評価が高まることも愛校心を高める一つであろう。
B (5.12)	B (5.29)